

発寒ひかり
保育園だより

2024年
3月号

巻頭言

3月は、卒園も近づき、子どもたちの成長した姿を見られる嬉しさと共に、別れの淋しさも感じる月でもありません。

令和6年の年明けは、衝撃的な能登半島地震から始まりました。同規模の地震が、札幌でも実際に保育中に起きたとしたら：考えただけでも身が引き締まる思いです。

当園では年間計画を立てた上で、毎月避難訓練を行っています。「地震」「火災」「水害」「不審者対応」と様々な内容を、ねらいを持って訓練をし、職員のみならず子どもたちも有事の際に動くことが出来るよう努めています。

1月の不審者対応訓練の際の事です。不審者役の変装した職員（帽子にサングラス・マスク姿）が、グラウンドで遊んでいる子どもたちにも声を掛けるため、駐車場にてタイミングをはかっていました。すると「何かお困りですか？」と向かいの発寒中学校の職員の方が、不審者役の職員に声を掛けてくれたのです。今回は背中に『不審者役』の張り紙をしていなかったため、訓練とは思わず「何かあるのでは…」と心配をして下さったのでしよう。

その話を訓練終了後に聞き、ありがたい事と感謝しました。気になる事があった際に、お互い助け合ったり情報交換を行う事は、本当に大事な事だと改めて強く感じます。保育園という場が、地域の皆さんに守られ支えられている有難さと、保育園自身も当園の『保育の基本方針』の中にある「(略)地域における公的施設としての社会的責任を果たします。」を実践していききたいと思います。

園長 阿部 尚子